

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150480020		
法人名	医療法人社団 高仁会		
事業所名	グループホーム 悠々 (東ユニット)(西ユニット)		
所在地	佐賀県多久市北多久町多久原2512-24		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年12月3日	外部評価確定日	平成26年12月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>(東ユニット)・日常生活の中で、毎日行う作業(洗濯、掃除、買い物、食器の片づけ等)を入居者と職員が一緒に行いながら、共に生活している。・入居者ひとりひとりの「出来る事」「得意な事」を把握し、支援を行っている。・地域との交流を大切にしている。(西ユニット)・家庭的な雰囲気の中で、日々過ごして頂ける様支援している。・入居者の思いや意思を大切にしている。・外出や買い物などを通じて、地域の方々との交流を大切にしている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>交通の便はよく、また、車の騒音などは殆ど気にならない環境に立地している。敷地内には母体の病院があり、1階にこの「悠々」が入る建物では、上の階に同法人の他部署もある。有事の際は互いに協力しやすく、日常の業務でも意思決定や通達がスムーズである。管理者の「職員が働きやすい環境を」という想いは、更に上質のケアへと繋がっていく。現場の職員にもその想いは伝わり、チームワークの良さとして表れている。理念の他、ユニット毎に目標を掲げている通り、全ての職員は入居者に寄り添い、入居者主体のケアに努めている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	実施状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH悠々として、地域に密着した理念を掲げ、又東ユニットのケア目標を職員で考え、居間に掲示している。入居者のニーズに沿ったケアが提供出来るように心掛けている。	GH悠々として、地域に密着した理念を掲げ、又西ユニットのケア目標を職員で考え、居間に掲示している。入居者のニーズに沿ったケアが提供出来るように心掛けている。	平成12年の開所時、母体が運営する法人の一つとして掲げられた理念がある。その趣旨に沿いながら、自分達の言葉で表したいという想いでユニット毎に作り上げられたものがある。それは目標という形で表され、日々のケアの指針として常に目に付く場所に掲示している。毎月の職員会議でも、常に立ち戻る基本であることを再認識するよう促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中多久区の夏祭り、地区一斉清掃活動、近くの幼稚園との交流(七夕会、幼稚園運動会の見学等)等を入居者と共に行っている。	中多久区の夏祭り、地区一斉清掃活動、近くの幼稚園との交流(七夕会、幼稚園運動会の見学等)等を入居者と共に行っている。	敷地内にある同法人施設と協力しながら、地域の活動にも積極的に参加している。法人全体の取り組みとして、知識を活かした出前講座等も行われているが、今後は事業所独自でも行事等を回覧板で周知し、地域住民を招いてみたり、更なる交流へと広げていくことも検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内における文化祭への参加を通じ、地域の人々へ認知症に関する理解・啓蒙を行っている。又、近くの幼稚園児や多久高校の生徒との慰問等で触れ合う機会を作っている。	法人内における文化祭への参加を通じ、地域の人々へ認知症に関する理解・啓蒙を行っている。又、近くの幼稚園児や多久高校の生徒との慰問等で触れ合う機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の活動計画を基に運営推進会議を開催している。そこで年間の活動に関するプレゼン(パワーポイント使用)を行い、周知を図っている。	年間の活動計画を基に運営推進会議を開催している。そこで年間の活動に関するプレゼン(パワーポイント使用)を行い、周知を図っている。	運営推進会議は、事業所からの報告だけではなく、参加メンバーから貴重な意見も貰える場となっている。地域との繋がりを保つためにも、外部の人の目を通して事業所を知ってもらい、理解と支援を得るための絶好の機会として活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回多久市地域包括センターで開催される地域包括ケア会議に参加し、情報交換の場としている。	毎月1回多久市地域包括センターで開催される地域包括ケア会議に参加し、情報交換の場としている。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から実直に対応してもらえる関係が出来ている。最近の例では、事業所として地域密着の観点からも、小中学生とのボランティア交流を検討する中、教育委員会への働きかけ等を担ってくれたことは、実現に向けての進歩となった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会と連携し、拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関・裏口共に施錠していない。身体拘束も行っていない。契約書において、身体拘束に関する事前協議書を取り交わし、基本的な考え、対処方法、ご家族の意向等を確認している。	身体拘束ゼロ推進委員会と連携し、拘束しないケアに取り組んでいる。日中は玄関・裏口共に施錠していない。身体拘束も行っていない。契約書において、身体拘束に関する事前協議書を取り交わし、基本的な考え、対処方法、ご家族の意向等を確認している。	法人全体での意識も高く、年1回は全員が研修を受けている。職員は、身体拘束の内容とその弊害も理解している。日中は玄関や非常口に施錠はなく、入居者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する法人内研修会へ参加し、意識啓発に取り組んでいる。又、ホーム内においても、身体的・精神的・社会的虐待ととられかねない職員の間には気を付けるように注意している。	高齢者虐待防止に関する法人内研修会へ参加し、意識啓発に取り組んでいる。又、ホーム内においても、身体的・精神的・社会的虐待ととられかねない職員の間には気を付けるように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 東 ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( 西 ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基本的人権・倫理等に関する研修会に参加し、もしくはレポート提出等を行い、人権教育を基にしたケアの展開ができるようにしている。	基本的人権・倫理等に関する研修会に参加し、もしくはレポート提出等を行い、人権教育を基にしたケアの展開ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約、改定に関しては、口頭及び文書にてきちんと説明し、納得・了解して頂けるように努めている。	契約締結・解約、改定に関しては、口頭及び文書にてきちんと説明し、納得・了解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口として、ホーム長及び東ユニットの担当者を配置している。契約書内に苦情処理に関する条項を設けており、申し立て機関の説明も行っている。	苦情相談窓口として、ホーム長及び西ユニットの担当者を配置している。契約書内に苦情処理に関する条項を設けており、申し立て機関の説明も行っている。	玄関にご意見箱を置いたり、来所時には何でも話してもらえるような雰囲気作りに留意している。なかなか想いを口にしない家族には、入居者の日頃の様子などを話しながら、徐々に信頼関係が築けるよう配慮している。敬老会の日を利用し家族懇談会も行っており、忌憚のない意見が聞けるよう努めている。また、事業所以外にも意見や苦情を表せる窓口があることも説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	東西ユニット全体での定期的なミーティング等で職員からの意見や提案を聞き、反映させる機会を設けている。	東西ユニット全体での定期的なミーティング等で職員からの意見や提案を聞き、反映させる機会を設けている。	月1回、18時から2ユニット合同の職員会議がある。職員が交替で司会を務めたり、事前に議題を決めているため、限られた時間を有効に活用する意識も高い。勤務中の職員は、会議後の記録に速やかに目を通すようにしている。管理者は、職員にとって働きやすい環境であることを常に心掛けており、日頃の些細な意見や要望にも耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を基にした各職員の年間目標立案・自己評価・他者評価を行い、向上心を持って仕事ができるような仕組みがある。	人事評価制度を基にした各職員の年間目標立案・自己評価・他者評価を行い、向上心を持って仕事ができるような仕組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に関する情報提供がなされており、必要な勤務調整も行い、参加出来る機会作りを行っている。	法人内外の研修会に関する情報提供がなされており、必要な勤務調整も行い、参加出来る機会作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本、佐賀県等のグループホーム協会の研修会への参加を行い、情報交換を行うように努めている。	日本、佐賀県等のグループホーム協会の研修会への参加を行い、情報交換を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 東 )	自己評価／ユニットB( 西 )	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、見学を希望されるご本人やご家族にホームに来て頂き、説明を行っている。ご本人やご家族から入居にあたって、生活歴や現病歴等のお話を聞き、情報収集を行っている。それを基にしたフェイスシートやケアプランの作成に努めている。	入居前に、見学を希望されるご本人やご家族にホームに来て頂き、説明を行っている。ご本人やご家族から入居にあたって、生活歴や現病歴等のお話を聞き、情報収集を行っている。それを基にしたフェイスシートやケアプランの作成に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたり、グループホームでの生活に不安が生じないように、要望等を充分聞き、それに添えるように留意し、ご本人やご家族への説明を行うように努めている。	サービス利用開始にあたり、グループホームでの生活に不安が生じないように、要望等を充分聞き、それに添えるように留意し、ご本人やご家族への説明を行うように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの希望を聞き、張りのある生活を提供する方法として、デイケア参加に関する調整を行っている。	ご本人やご家族からの希望を聞き、張りのある生活を提供する方法として、デイケア参加に関する調整を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれに「受け持ち」を配置し、ニーズを掴み、必要であればご家族との関係調整を図る役割を行っている。ご本人の出来るところや得意なものを活かすように努め、食事・洗濯等に関わって頂き、フォローを行っている。	入居者それぞれに「受け持ち」を配置し、ニーズを掴み、必要であればご家族への代弁者として関係調整を図る役割を行っている。ご本人の出来るところや得意なものを活かすように努め、個性を尊重した対応を行っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が維持出来るように努め、面会時等には日頃の過ごし方に関する情報提供を行ったり、必要時には電話連絡を行っている。又、一緒に食事をして頂いたり、ホーム内での行事も一緒に楽しめる様にし、ホームとしての雰囲気作りに努めている。	ご家族との関係が維持出来るように努め、面会時等には日頃の過ごし方に関する情報提供を行ったり、必要時には電話連絡を行っている。又、一緒に食事をして頂いたり、ホーム内での行事も一緒に楽しめる様にし、ホームとしての雰囲気作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との交流を大切に、母の日や父の日のご家族からのプレゼントを共に喜び、又それを大切にしたりした行事を行っている。	昔からの友人宅への外泊等、ご家族の同意の基に関係性を尊重した対応を行っている。ご家族からの父の日や母の日のプレゼントを共に喜び、又それを大切にしたりした行事を行っている。	入居者がこれまで培ってきた人間関係や場所との関係を把握するため、本人や家族はもとより、担当のケアマネージャーなどからも情報を集めている。行きつけの美容院を利用し続けている方や、時には友人の訪問もあり、継続的な交流が出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの性格や特性を理解し、孤立しないように職員は関わりを持つようになっている。ケア目標として、それを掲げ、ケアに努めている。	入居者の性格や特性を理解し、一人ひとりに応じた関わりを行っている。過度な関わり方をしがちな入居者に対しては、さりげなく職員が仲介に入り、関係調整に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 東 )	自己評価／ユニットB( 西 )	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された様な場合には、ご家族の了解の基に、お見舞いに行き、状態・状況を把握する様に努めている。	入院された様な場合には、ご家族の了解の基に、お見舞いに行き、状態・状況を把握する様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の日常生活の中で、入居者とゆっくりと向き合い、希望や意向に傾聴し、カンファレンスにおいて検討し、又家族からの意向も聞き入れながら、本人の表情や雰囲気、態度から汲み取りながら検討を行っている。	入居時に本人やご家族から情報を得ている。又、日々の生活の中での思いや希望を聞き取り、出来る限り対応している。	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。食後に寛いでいるひとときや、入浴中のリラックスした状態の時には、入居者の想いに触れることがある。職員は、介護のためではなく、生活を支えるためという意識で向き合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から情報を得つつ、日頃の日常生活の中で、本人の生活状況や習慣に目を向けながら、生活のパターンをくみ取っている。	入居時に本人やご家族より、これまでの生活歴や生活環境について細かく聞き取り、ホームでの暮らしに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の日常生活の中で、本人の出来ること・出来ないことを把握し、見極めながら、個々の心身の状態や能力に応じながら生活全般の支援を行っている。	日々の暮らしの中で、出来ること・出来ないことを見極めるようにしている。又、その時々での心身の状態や能力に応じた声かけや支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を聞き入れながら、生活状況において、モニタリング等を行いながらカンファレンスを行い、介護計画を作成し、3ヶ月・6ヶ月と個々の状況や状態に応じて、その都度対応の見直しを行い、ニーズによって随時検討・変更を行っている。	本人やご家族の希望を取り入れたモニタリング・カンファレンスを行い、介護計画を作成している。又、状態に応じて3ヶ月、6ヶ月毎に見直しを行い、ご家族のニーズや本人の状態に変化があった場合には随時変更している。	本人や家族には、日頃の関わりの中で想いや意見を聞き、反映させるようにしている。介護計画は、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間毎の見直しはもとより、要望や変化に応じて臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿いながら、24時間の生活の具体的な内容を経過記録に残し、個々の状況や状態に応じた対応を行い、その内容も記録に具体的に残している。	介護計画に沿ってケアを行い、ひとりひとりの具体的な内容を昼夜記録している。又、その時々での気づきやケアの工夫についても具体的に記録する事で情報を共有し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応しながら、個別に美容室や買い物外出等に対応し、病院受診や付き添い等は基本家族に依頼しているが、家族の状況や状態に応じた柔軟な対応を行っている。	個別での外出や買い物の支援を行っている。通院の付き添いは基本的にご家族に依頼しているが、状況に応じて柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 東 )	自己評価／ユニットB( 西 )	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の生活を支えるものとして、整容や食事等を行う場所への外出や地域住民との触れ合う機会となる地区行事や幼稚園児、高校生との触れ合い等、豊かな暮らし作りに努めている。	入居者の生活を支えるものとして、整容や食事等を行う場所への外出や地域住民との触れ合う機会となる地区行事や幼稚園児、高校生との触れ合い等、豊かな暮らし作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、必要時には再検している。心身の状態把握に努め、中多久病院定期受診や、必要時にはかかりつけ病院等への受診も、本人やご家族の意向を踏まえた対応している。	毎日バイタルチェックを行い、必要時には再検している。心身の状態把握に努め、中多久病院定期受診や、必要時にはかかりつけ病院等への受診も、本人やご家族の意向を踏まえた対応している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。半数は入居前からのかかりつけ医である。初診では、その後の診療の判断もあることから家族にも同行をお願いしているが、それ以外では職員が付き添うことも多い。受診結果の報告等は、入居時の契約書に確認事項として明記され、その際の希望に沿って対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日常的な健康状態把握(毎朝定時のバイタルチェック、及び再検)を行い、介護職員からの報告を基に助言や対応、医師への報告等をホーム長(看護師)が行っている。必要時には他科受診付き添いを行い、ご家族への連絡調整を行っている。	入居者の日常的な健康状態把握(毎朝定時のバイタルチェック、及び再検)を行い、介護職員からの報告を基に助言や対応、医師への報告等をホーム長(看護師)が行っている。必要時には他科受診付き添いを行い、ご家族への連絡調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には面会や病院職員へ可能な限りの状態確認を行い、病状把握、情報交換等を行い、ご家族との連絡調整も行っている。	入院した場合には面会や病院職員へ可能な限りの状態確認を行い、病状把握、情報交換等を行い、ご家族との連絡調整も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「入居時リスク説明書」にて、高齢者の特徴、身体的不調が起こった場合の確認事項、かかりつけ医療機関や搬送先病院等の希望を書面にて取り交わし、専門医療機関での治療・検査に関する確認を行っている。	入居時に「入居時リスク説明書」にて、高齢者の特徴、身体的不調が起こった場合の確認事項、かかりつけ医療機関や搬送先病院等の希望を書面にて取り交わし、専門医療機関での治療・検査に関する確認を行っている。	事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえながら、状況の変化に応じて、その都度、話し合いを重ねるようにしている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。これまでに看取りの経験はないが、管理者は将来を見据えて、事業所の体制や力量などを把握し、職員全体で率直に話し合うことも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修会への参加(緊急時対応セミナー)、安全管理や事故対応マニュアル等の整備・活用を促し、緊急の場合に備えるようにしている。	法人内研修会への参加(緊急時対応セミナー)、安全管理や事故対応マニュアル等を整備し、緊急の場合に備えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に関しては、年2回の避難訓練を行っている。中多久区長からの助言を法人の防災委員会へ伝えたりして、防災上に生かすように努めている。	防災に関しては、年2回の避難訓練を行っている。中多久区長からの助言を法人の防災委員会へ伝えたりして、防災上に生かすように努めている。	法人全体として年2回、消防署の立会いもあり、入居者も一緒に避難訓練を行っている。時間帯は昼間で、夜間は想定としている。各居室の名前札には介助の度合いを示す色が貼られているが、この色分けは同法人内全ての対象者で共通しており、救助に駆けつけた他部署の職員にもすぐに判断がつくようになっていた。大きい家具は固定され、全ての職員は消火器の使い方や火災通報装置の手順も承知している。また、すぐに駆けつけられる範囲に居住する職員も複数おり、非常食や水などの備蓄もある。訓練の反省や気づきは法人の委員会がまとめ、院内会議で報告され、それぞれの部署や事業所へ持ち帰り活かされている。	同じ敷地内に母体の病院など複数の施設があることから、昼間の緊急時には多数の応援が見込まれる。しかし、手薄な夜間帯の対策も必須で、近隣住民にも理解を求め、訓練への参加や協力体制が築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 東 )	自己評価／ユニットB( 西 )	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	悠々の理念を基にした東ユニットのケア目標に、尊厳を守りながらケアしていく事を掲げており、日々その事に気を付けながら対応している。言葉遣いや態度に気を付け、プライバシーを侵害しないように訪室時のノックや排泄の声掛けの仕方にも留意している。	悠々の理念を基に西ユニットのケア目標として、入居者様の要望を理解し、ニーズに合わせたケアを行うように努めている。東ユニットと同じように、訪室時のノックや排泄介助の際にはプライバシーを尊重した対応に努めている。	年長者として敬意を払い、援助が必要な時はさりげないケアを心掛けている。接遇研修も法人内で年1回は行われている。また、年4回発行される悠々新聞は理事長も確認し、掲載される写真等については、その都度、該当者に承諾を得ている。個人情報も責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活上の意思決定は本人の意向を尊重するように努め、必要であれば助言を加えたり、ご家族からのサポートをして頂いたりしている。	日常生活上の意思決定は本人の意向を尊重するように努め、疎通が取りにくい入居者に関しては、表情や態度などから判断し、本人の意向をくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったり、楽しく過ごせるように入居者のペースを尊重するように目標に掲げ、QOLを大切に考えた対応に努めている。	入居者ひとりひとりに合わせたペースでのケアを行うように目標に掲げ、業務優先とならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品道具などは自宅から持参してもらい、自室内にて化粧出来るようにしている。整容に関しては、近くの理容室を利用したり、入居者の知り合いの理容師に来所してもらい、整髪してもらったりしている。又、本人の好む服の購入に販売店まで付き添い外出したりしている。	入居者の希望する化粧品道具の使用や服の購入など、おしゃれを楽しめる様にしている。近くの理容室の利用を行い、整容にも気を付けた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事を楽めるように職員も同じメニューを頂いている。食後の片付け等は、入居者の自主性を尊重しながら行ってもらい、家庭での過ごし方と変わらない様に努めている。	各個人の能力に合わせた食事作りを行い、職員も同じメニューを頂いている。食器片付け等も本人の自主性を尊重した関わりを行っている。希望のメニューを取り入れたり、外食の機会もある。	献立は、一週間単位で母体病院の栄養士が作成しているが、時には食べたいものを尋ね、翌週には提供している。入居者の誕生日には、希望の食事が用意され、おやつにケーキが振舞われて皆で祝っている。毎日の食事一連の作業は、年を重ねるにつれ難しくなる入居者もいるが、それぞれに出来ることで参加し、職員も見守りながら支援している。職員と入居者は、同じものを同じテーブルで食べながら、苦手な食材には「お友達になれない」と答える入居者のユーモアに笑い声も聞こえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の食事摂取量を考えながら、配膳している。糖尿病の方に対する薬の内服にも気を付けて対応している。食事摂取量のチェックも毎回行っている。水分量も夏場は脱水を招かないように、不足なく飲用してもらうように努めている。毎月初めには体重測定を行っている。	各個人の食事摂取量を考えながら、配膳している。食事摂取量のチェックも毎回行っている。水分量も夏場は脱水を招かないように、不足なく飲用してもらうように努めている。毎月初めには体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人のADL等を考慮した声掛けや介助を行っている。歯科治療が必要な方に対するご家族への働きかけや、外出が困難な方には協力歯科医の訪問治療も出来るようにしている。	各個人のADL等を考慮した声掛けや介助を行っている。歯科治療が必要な方に対するご家族への働きかけや、外出が困難な方には協力歯科医の訪問治療も出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人のADLに応じた排泄状況の把握に努めている。排泄介助が必要な方には、排泄パターンを観察・把握しながら、必要な排泄ケア用品の使用を行っている。日中・夜間定期・不定期に排泄介助・排泄ケアを行っている。	各個人のADLに応じた排泄状況の把握に努めている。排泄介助が必要な方には、排泄パターンを観察・把握しながら、必要な排泄ケア用品の使用を行っている。定期・不定期に排泄介助・排泄ケアを行っている。	自尊心に配慮し、入居者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じた個別の排泄支援を行っている。パット類も本人に合わせ検討しながらトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の散歩や軽運動を促している。又、乳製品や食物繊維、水分の摂取を促したり、緩下剤の服用を行い、その後の排泄には留意した対応を行っている。	日々の散歩や軽運動を促している。乳製品や食物繊維、水分の摂取を促したり、緩下剤の服用を行い、その後の排泄には留意した対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的には毎日可能。ただし、各入居者の健康状態に注意しながら、入浴前にはバイタル測定を行っており、状態に応じた入浴方法に留意している。入浴パターンの把握も行いながらも、嫌がられる場合には無理強いはしないようにしている。	入浴は毎日可能で、本人の希望で入浴してもらっている。湯加減も好みで対応している。入居者の健康状態や清潔保持に気を付けた対応を行っている。羞恥心に配慮し、個別での入浴を行っている。	入居者のその日の希望を確認しつつ、無理のないように支援している。拒む方には、タイミングをずらしたり、職員を替えたりして試みるが、清拭や足浴等でも対応している。冬場の脱衣場は温度管理され、衣服の脱ぎ着も出来るだけ本人に任せ、職員は、羞恥心に配慮しながら見守っている。浴室内にある数本の手摺りは、転倒防止や自力での入浴を助けることに役立っている。ゆっくりと寛いだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来ように室温や音等に配慮している。睡眠パターンを観察・把握しながら、不眠がある場合には、日中の休息を取り入れたりする等の対応している。医師処方睡眠薬の服用をきちんとしてもらうようにしている。	各入居者の生活習慣を尊重し、一律な就寝時間は設けていない。日中の過ごし方をみながら、不眠に繋がらないように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関しては職員管理を行い、きちんと服薬してもらうように援助している。高血圧、糖尿病の方もおられるので、バイタルチェックや一般状態観察等を行っている。薬剤情報提供書を基に、薬品名・用法・用量等を確認している。	内服に関しては職員管理を行い、きちんと服薬してもらうように援助している。内科的な疾患を持っている方へのバイタルチェックや一般状態観察等を行っている。薬剤情報提供書を基に、薬品名・用法・用量等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事やホームレクを行い、四季の移り変わりを感じたり、地域の方々と触れ合い、ご家族との交流が図れ、張り合いのある暮らしが送れるように努めている。	年間行事やホームレクを行い、四季の移り変わりを感じたり、地域の方々と触れ合い、ご家族との交流が図れ、張り合いのある暮らしが送れるように努めている。個別での外出や外食などの機会を持ち、ゆっくりと楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物、美容室までの外出や花見・温泉等への外出を行ったり、ご家族との外出・外食等に関する支援等を行っている。	日常的な散歩や買い物、美容室までの外出や花見・温泉等への外出を行ったり、ご家族との外出・外食等に関する支援等を行っている。	外出は、気分転換や五感の刺激にもなる良い機会である。天候や体調をみながら周辺を散歩したり、ドライブに出掛けたりしている。先の外出では、職員が自主的に下見に行き、通路の幅や車椅子トイレの有無などを確認している。新しい車椅子対応車両の導入予定もあり、職員は入居者の想いに沿った支援に繋がればと心待ちにしている。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( 東 )	自己評価／ユニットB( 西 )	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員にて行っている。他科受診や買い物等を行った場合には、必ず出納帳記載を行っている。買い物等に関しては、職員付き添いにて行ったりしている。	金銭管理は職員にて行っている。他科受診や買い物等を行った場合には、必ず出納帳記載を行っている。買い物等に関しては、職員付き添いにて行ったりしている。支払い本人に行ってもらう事もあり、満足感に繋がるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に関しては、本人の意向を尊重した対応を行っている。電話での会話に対するプライバシーへの配慮を行っている。	電話や手紙に関しては、本人の意向を尊重した対応を行っている。電話での会話に対するプライバシーへの配慮を行っている。切手の購入や手紙の投函等、要望に応じてその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人的環境・生活環境等に注意を払い、快適な生活空間となるように努めている。清潔な生活環境の提供を考え、日常的な清掃や食後の片付け等には留意している。温度・湿度等に気を付け、空調関係の調整には気を付けている。	人的環境・生活環境等に注意を払い、快適な生活空間となるように努めている。清潔な生活環境の提供を考え、日常的な清掃や食後の片付け等には留意している。温度・湿度等に気を付け、空調関係の調整には気を付けている。	入居者が一日の殆どを過ごすリビングは、広さも十分に床暖房が設えてある。リビングを中心に周囲を居室が囲む設計であるため、職員の目配りもしやすく、すぐに対応できている。家具類も入居者の通行に障るような配置はしておらず、浴室等もきれいに掃除されている。また、読書や新聞記事の書写が日課となっている入居者もいることから、広いリビングを圧迫感のない程度で少し間仕切りし、落ち着けるコーナーが出来ないものかと検討中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2カ所に分け、なるべく個人がゆっくりと過ごせたり、他の入居者と交流が持てたりする事が出来るような環境作りを心掛けている。テレビを見たり、音楽を聴いたり、その時々で過ごし方に変化をつけられるように配慮している。	ソファを2カ所に分け、なるべく個人がゆっくりと過ごせたり、他の入居者と交流が持てたりする事が出来るような環境作りを心掛けている。テレビを見たり、音楽を聴いたり、その時々で過ごし方に変化をつけられるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や物品等を居室内に運び入れ、違和感をなるべく少なく過ごしてもらるように配慮している。入居後もご家族と話したりしながら、居心地良い環境作りに努めている。	自宅で使い慣れた家具や物品等を居室内に運び入れ、違和感をなるべく少なく過ごしてもらるように配慮している。入居後もご家族と話したりしながら、居心地良い環境作りに努めている。	居室に持ち込む品物には、火気等危険物以外の制限はない。ベッドやクローゼット内のタンスは備品として用意されているが、使い慣れた物を身の回りに置くことや、家族の写真などを飾ることで、居心地のよい居室作りを支援している。また、折り紙の得意な入居者を先生として、一緒に折った作品がそれぞれのドアに飾られ、自室の目印にもなっている。掃除は職員が行うが、入居者も出来ることを手伝っている。希望があれば、家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態を勘察し、ご家族へ相談し介護靴の導入を図ったりしている。居間、脱衣所、居室内に手摺りを設置している。	歩行状態を勘察し、ご家族へ相談し介護靴の導入を図ったりしている。居間、脱衣所、居室内に手摺りを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない